

1-3 まちづくりDXの必要性

主なご意見

・第2章以降にギャップがあると感じている。前回(第1回)のキーワードを踏まえて時間・空間、関係性の制約を取り払うことにつながる政策が記載されているのか、今後ご意見をいただきたい。(宇野局長)

・一自治体のデジタル推進室だったらどう思うか、ストーリーや役割分担は納得できても、どのように導入したら良いのか、何から始めたら良いのか、どういうロードマップで参入していくと良いか、何を整備しないとイケないのかがないと、読み物で終わってしまう懸念がある。(齋藤委員)

・齋藤委員からの理念は立派だがどうやって進めるのかが示せていない、というご指摘について、ヒントはエリマネDXにあるように思う。都市全体ではできないが、ある特定のエリアを切り取ればできるかもしれない。吉村委員のプレゼン中にあった「まちを評価することがまちを変える」にあったように、エリアで区切った変革について、オープンデータ化をして評価する例が増えていけば、他の地域でも、色々なエリアの事例を選択的に参考にしながら推進できるのではないか。(宇野局長)

反映のポイント

・「4.まちづくりDXのロードマップ」に掲載されている各施策において「変革」の観点を検討し、明記。

・「1-7 まちづくりDXの取組みモデル」を追加

1-4 まちづくりDX原則の考え方

主なご意見

・例えば「歩いて楽しいまちづくり」では、「どうしてそうするのか？」ということを問われて、その効果を生活の質が上がったのか、住民が幸せになったのかなど定量化し、それらに基づき合意を形成することが大事。(吉村委員)

・都としてもデータのオープン化を進める方向だが、オープンデータ原則として示されている中で、特に、過去のデータを「機械判読が可能な形」でオープン化しようとするコスト・時間がかかる。(若井委員)

反映のポイント

・「1-4 まちづくりDX原則の考え方」において考え方を明確化。

・「1-7 まちづくりDXの取組みモデル」を追加

1-6 まちづくりDXの役割分担とケイパビリティ強化

主なご意見

- ・データのオープン化、アナーキーな使い放題な世界にならず、ガバナンスが効いた状態、その両輪での推進が必要。水野委員がガイドラインで対応できる範囲と仰っていたこと。その頭出しをしていただけるとありがたい。データのポテンシャルを生かす、その部分については正面きって考えないといけない、1～3章につなげていくきっかけになるのではないか。(出口座長)
- ・吉村委員から、アカデミアの役割の話があったが、蓄積されたデータを掘り起こすのもアカデミアの使命なのではないか。(出口座長)
- ・齊藤委員の意見にあった、どこから第一歩を踏み出すか。官のリーダーシップがあったのがバルセロナ。一方で、武蔵大学・庄司先生がおっしゃる「地方豪族」という観点では、民がリーダーシップをとる例もある。自治体のリーダーシップという意味では都にも頑張ってもらいたいと思うが、色々なモデルがある。多様なモデルがあるよ、どれを選びますか？と示せると、皆さんが踏み出しやすい。(吉村委員)

反映のポイント

- ・「1-6 まちづくりDXの役割分担とケイパビリティ強化」を修正
- ・「1-7 まちづくりDXの取組みモデル」を追加